

活動例5 「人とかかわり ―コミュニケーション―」 4歳児 1学期

『絵本の読み聞かせ みんなで一緒に絵本を見よう』

育てたい力

- ・自分から友達にかかわろうとする力

経験させたい内容

- ・気に入った友達と一緒に座って過ごす。
- ・自分の思いが友達に伝わった喜びを感じる。

4歳児4月 事例

〔クラスの実態〕

男児11名、女児13名、計24名 幼児クラスなどで入園前からの顔見知りの幼児が数名いる子が多い。幼稚園での生活の流れが分かるにつれて自分から行動することを楽しんだり、みんなで集まる時間に期待をもち教員の声かけに応じて自分たちから集まったりするようになってきている。しかし、気になる友達や気の合う友達に思いをうまく伝えられなかったり相手の思いを受け入れられなかったりしてトラブルになることもある。

〔活動の流れ〕

お弁当の前の集まりで、絵本の読み聞かせをする。片付けをした子から、各自椅子を持ってきて馬蹄形に座り、絵本を見る。

〔指導や環境の工夫〕

- ・幼児の様子を見て、集まる時の方法や隊形などを分かりやすく伝え、自分で考えて行動できるようにする。
- ・幼児の思いをくみ取り、必要に応じて言葉に表しきれなかった部分を仲介したり、言い方を知らせたりする。
- ・相手に思いが伝わった喜びを共感したり認めたりしていき、友達に思いを伝えていく楽しさが感じられるようにしていく。

〔エピソード〕『いっしょに座ろう』

【記録前の様子】 「集まりの時間にするよ。」という教員の呼びかけに、幼児たちは片付けを終えて集まる用意を始める。「椅子を出して座りましょう」と教員が呼びかけると、自分たちで椅子を出し始める。集まる時の隊形の馬蹄形になるように、座って友達が来るのを待っていたり、気になる友達と一緒に座ろうと友達の後を追ったりといろいろな幼児の姿が見られる。

『いっしょに座ろう』 A児は馬蹄形になって座っている子たちの後方で、椅子を持ったままなかなか座らず、座り始める幼児たちの様子を見ている。しばらくたたずんでいたが、椅子をもった列の中にB児を見つけると、列の近くに移動する。教員がA児の様子を見守っていると、A児はB児に近寄り、「Bちゃん、一緒に座ろう」と声をかける。B児は嬉しそうに「いいよ。」と笑いながら答える。A児はほっとした様子で、B児と一緒に椅子を持って列の端まで移動する。A児が「ここにしよう」と声をかけると、B児も「そうしよう」と応え、二人は椅子を並べて座る。



教員は「Aちゃん、Bちゃんと一緒に座れてよかったね」と声をかけ、全員が座ったのを確認してから、「みんな座れたね」と全体に声をかけ、絵本の読み聞かせを始める。

【その後】 読み聞かせの最中、時折顔を見合わせ笑ったり「面白いね」などと話したりしながら聞いていた。その後の生活の中でも、二人で声を掛け合い一緒に遊んだり、集まりの際に一緒に並んで座ったりする姿が多く見られるようになった。A児は、自分から声をかけて応じてもらったことに喜びを感じたようで、他の気になる幼児にも声をかけたり、教員にその友達のことを聞きに来たり、様子で気付いたことを伝えにきたりするようになっていった。

予想される活動例

- ・帰りの集まりや一斉活動
(自分で選んだ場所に座って活動に参加する場面)

〔5歳児への学び〕

- ・友達に思いが伝わる喜びを積み重ねていくことで、自分の思いを相手に伝えようとする気持ちが培われていく。また、相手への伝え方も学び、友達関係を築いていく基礎となっていく。